



森の息吹

No.172 10月号
2020. 9月27日発行
編集代表：五賀利雄
0133-26-3738

「協働の森」 植栽地のモニタリングと苗畑の草ぬき & シイタケほだ木の組み替え

9月の活動報告

9月6日(日) 協働の森 植栽地のモニタリング(生育状況調査) 参加者 11名

今回は次年度分、今年度分および前年度植栽地のそれぞれ数区画で樹種・高さ・径のモニタリング調査を各班に分かれ行いました。

特に、次年度分のモニタリングサイトはニセアカシアの群生地で、さらにはかなりの傾斜地であり、笹も生い茂る中で1本1本、樹種や高さなど計測するのは困難を極めました。

また、樹木の高さを計測する新しい道具が披露されて有効に活用されました。

前年度の植栽地は必須ではありませんが今後も継続していく予定です。モニタリング終了後は苗畑で草取りを行いました。



今年6月に植え替えた苗木は枯れているものもありましたが

無事に育ってくれる事を期待しています。

山田倉庫に戻りシイタケのほだ木を組み替えて、秋からの収穫に備えました。

今後の活動の確認も行いました。



10月の活動案内

10月4日(日))

内容 「協働の森」 チェーンソーの研修会 22世紀の森 奥の広場

集合場所と時間 山田倉庫に9:15集合 現地10:00~13:00

持ち物 チェーンソー(実習用) 飲み物 昼食はBBQを予定

別紙「協働の森通信」を参照してください

10月18日(日)

内容 苫小牧「和みの森」での間伐作業 10:00~14:00

集合場所と場所 ①当別町周辺の方「しらかばコミセン」に8:00 集合

(参加者で変更可) ②札幌周辺の方「道の駅ウトナイ」に9:30 集合

持ち物 除伐のチェーンソー 腰道具 弁当 飲み物



リレーコラム

花火写真撮影にチャレンジしました

玉澤 早苗

9月5日(土)に行われた「モエレ沼芸術花火 2020」は、皆さんご存知の有料花火大会ですがなんと、内緒ですが、家から良く見えます。

今年は、感染症が蔓延する中での開催となり“医療従事者の皆様に感謝と敬意をこめて”“こんな時こそ空を見上げて”を謳って、入場者数を 5000 人に制限して行われました。

2017 年は 2 万 4 千人が来場したそうなので 2 割近くまで減らしたことになります。

因みに、この花火大会は 2012 年から開催されていて、2018 年は胆振東部地震で中止、去年は悪天候の中での開催でしたので、ほとんど見えませんでした。

それが、今年は3年振りに、見ることができそうなので、私は、花火撮影にチャレンジすることにしました。前日からカメラ、望遠レンズ、三脚など用意して、シャッターを開放にする BULB 設定の操作など、久しぶりにカメラのトリセツを読んだりして準備しました。

当日は、予定通り夕方7時半からスタートして8時半までの1時間に休みなく一気に打ち上げられました。その間、私も、撮り続けて、あっという間にフィナーレとなってしまいました。

翌日、PC で思い出しながら整理しました。その中から、自分としては良く撮れたと思える写真がありましたので、皆様に“疫病退散祈願”を込めてお届けします。



実際に会場で観覧すると、音と光に包み込まれる異次元体験に感動するそうです。入場料は一人 1 万円程度かかるようですが、機会があれば行ってみたいと思っています。

その時は、カメラは持たずに、思いっきり体感したいものです。

編集後記

季節は移り、いつの間にか朝夕は涼しさを増し、短い秋が訪れています。

やがて来る長い冬に向けて、動物たちも大忙しです。

しかし、しかし、ここはひとつ、きのこ汁など堪能しながら秋の夜長を楽しみたいものです。

連絡その1 9月27日のキノコの観察会報告は11月号に掲載します

その2 新しい仲間がシラカンバに加わりました。よろしくお祈りします。

